

～ 啓蟄と春分 ～ さくらの開花

3月の二十四節気は上旬の啓蟄（けいちつ）と下旬の春分（しゅんぶん）です。
少しずつ暖かさを感じ、冬ごもり中の虫たちが目を覚まし、姿をあらわすような季節になります。

3月下旬になると、気になるのが「さくらの開花」です。
気象庁は、2010年から「開花予想」については民間気象会社に任せ、「開花発表」のみを行っています。
各気象台において、標本木（主にソメイヨシノ）で5～6輪以上の花が開いた状態となった最初の日を「開花日」としています。
民間気象会社は、複雑な計算式に最新のデータを入力し、多くのシミュレーションを行い予想しているようです。

ところで、さくらの開花のしくみですが、前年の夏から秋に休眠し落葉のあと、冬に低温にさらされることで眠りから覚め、春の陽気とともに開花する、とされています。
さくらは、暑い夏や寒い冬あつての、まさに四季の賜物かもしれません。

さて、気になる今年の東京の開花予想ですが、暖冬で休眠からの目覚めが悪く、開花は遅くなる予想もできますが、それ以上に3月の気温上昇の影響が強いと考えられ、平年の3月26日よりも早い、3月21日頃（昨年と同じ）を予想しています。

開花後は1日でも長く、さくらを楽しみたいので、雨風には少しご遠慮願いたいものです。

（次回は清明と穀雨）

株式会社エーティーティーソリューションズ
気象予報士 小川浩史

